

注 意 報

農技セ第5508号
令和6年8月2日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和6年度農作物病虫害発生予察情報について

令和6年度農作物病虫害発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

令和6年度病虫害発生予察注意報第3号

令和6年8月2日
徳 島 県

7月第5・6半旬に行った斑点米カメムシ類の調査において、水田周辺雑草地における生息数が平年に比べて多いことから、今後出穂期を迎える水稻の斑点米被害の増加が懸念されますので、注意報を発令します。

現地ほ場においては、今後の水田内での発生状況を注視するとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：普通期水稻

病虫害名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等）

1.発生地域 県西部及び東部地域

2.発生時期 8月上旬～

3.発生程度 多(前年よりやや多く、平年より多い)

4.注意報発令の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の普通期作水田周辺雑草地における生息数調査では、23調査地点全てで生息を確認した。捕獲地点率が100%と、平年(70.7%)に比べてやや高く、地点当たりの捕獲虫数は37.5頭と、平年(9.2頭)の4.1倍となり、過去10年で最も高い生息数であった(図1)。
- (2) 特にアカスジカスミカメ(図2)、クモヘリカメムシ(図3)、ホソハリカメムシ(図4)の割合が平年に比べて高く、それぞれ4.5倍、7.4倍、3.6倍であった。
- (3) 高松地方气象台が8月1日に発表した1か月予報では、気温気温は平年より高い状態が続く見込みとされており、今後水田への飛来及び加害の増加が予想される。

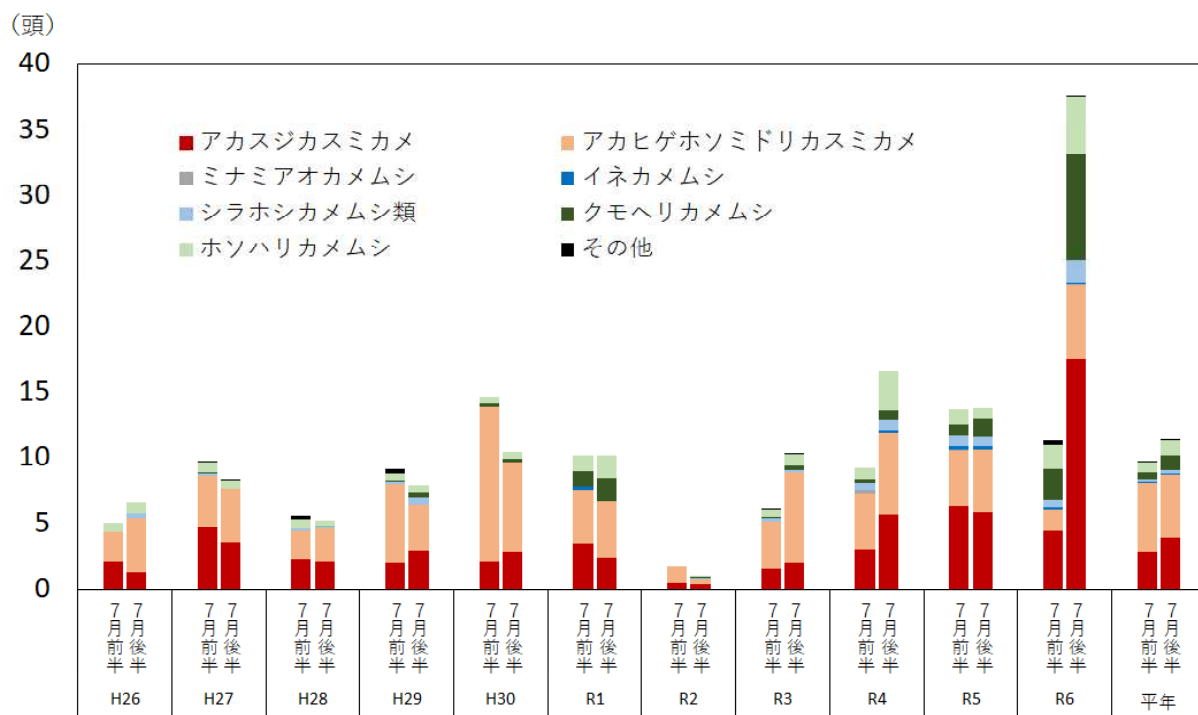


図1 過去10年間の雑草地調査における斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数と種構成



図2 アカスジカスミカメ



図3 クモヘリカメムシ



図4 ホソハリカメムシ

5. 防除対策等

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草は、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。
- (2) 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (3) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向にあるので、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (4) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。
- (5) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針(<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>)を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表 1 斑点米カメムシ類に登録のある農薬(登録内容：2024年 8 月 1 日現在)

農薬の名称	使用量・希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル顆粒水溶剤	2000倍			
スタークル液剤10	8倍・30倍(空中散布)			
ダントツ粒剤	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	4000倍			
ダントツフロアブル	24倍・90倍(空中散布)			
キラップ粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	2B
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	4C
トレボン乳剤	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	3A
トレボンエアー	8倍・30倍(空中散布)			